

【第16回年次大会 シンポジウム：海外交流の中でのジェンダーの諸相 要旨】

文化交流において卓越した業績を残した
3人のハンガリー人女性の生き方

Judit Hidasi

ヨーロッパという文脈において国際交流史を紐解いてみると、それは常に教育や科学、職人の技能、芸術の一部をなしていたと思われる。国際交流活動を行う理由は、多層的である。その後ろに隠れている、交流に駆り立てる衝動は、すなわち知識を増やし、スキルを磨きたいという欲求である。学者や医者、弁護士になるために外国で行うインターンシップや技能研修、その方法や条件は世代を通じて大きく変わってきたとはいえ、ヨーロッパ人にとって目新しいものではない。職業目的での移動は、長い間、男性の特権であり続けてきたことは驚くに当たらない。女性は、子育てと家事の責任を負い、あまり移動はしなかった。強い社会的伝統により、長い間、一般に女性が一人旅をしたり、家から離れることは許されなかった。

いくつかの例外がある。国際交流という文脈で目覚ましい生き方をした3人のハンガリー人女性について紹介したい。

1. 画家E. シャシュ・ブルネル (1889-1938) と娘で画家のE. ブルネル (1910-2001)

エリザベス・ブルネル (エルジェーベト・ファルカシュ) は、1889年にナジカニジャに生まれた。9歳から絵を描き始め、その後、町の美術学校で絵画を学んだ。その学校の恩師と恋に落ち、1909年に結婚。1910年に二人の間に娘のエルジェーベト・ブルネルが生まれた。1929年に夫が亡くなった後、母娘、エルジェーベト・シャシュ・ブルネルとエルジェーベト・ブルネルは、旅に出る。イタリアからエジプト、リビアを経て、1930年にインドに着いた。1935年から1937年までは日本に滞在。日本では、インドで描いたものだけでなく、ハンガリーで描いた絵画でも個展を開いた。二人が著した『神秘の国インド』(The Mystic India) という本は、ラビンドラナート・タゴールとマハトマ・ガンジーから序文が寄せられている。

エルジェーベト・ブルネルは、デリーでスタジオを開いた。彼女は、1955年から1957年までの遍歴の間に、インド、ネパール、タイ、セイロンにある仏教寺院の絵を描いた。1959年にはチベット難民支援運動に参加し、ダライ・ラマとも巡り合い、ヨーロッパ人として初めて彼の肖像画を描いたことでも知られる。また、ギアンニ・シン、インド大統領からパドマ・スリ国家賞を受賞している。2001年にデリーで逝去した。

2. マールタ・メーサーロシュ (1931年-) 映画監督、脚本家

メーサーロシュは、ハンガリー生まれであるが、スターリンの社会主義的実験において「外国人信奉者」に対してスターリンが示した寛容さに惹かれた両親に連れられ、1936年にソ連に渡った。父親は才能のある彫刻家であったが、スターリンの粛清の犠牲となった。こうした彼女の若い頃の経験が、1980年代に自伝的映画「日記」シリーズのベースとなった。このシリーズは、その政治的な主張だけでなく、反抗する若者達の苛立ちや個人的・歴史的な記憶のプロセスを感性豊かに描いたことでも、ハンガリー映画の新境地を開拓したと言われている。

60年代にドキュメンタリー映画を制作した後、メーサーロシュのキャリアは、70年代に飛躍する。この時期、彼女は、極端に男性支配的な家父長社会における女性としての存在と腐敗した重

苦しい政治体制という二重の抑圧に苦しんだ体験を基に一連の映画を制作した。2度の結婚後、ポーランドの映画俳優ヤン・ノヴィツキーが人生のパートナーとなった。マールタ・メーサーロシュは、女性の視点からライフストーリーを描いてきた。それ故、西洋社会では、フェミニスト運動によって高く称賛されている。

2. ユディット・ポルガール (1976年ー)

ユディット・ポルガールは、一般に史上最強のチェス・プレーヤーと見なされている。彼女は、12歳で世界のトップリスト100位以内に踊り出た1989年から、2014年8月に38歳でチェス競技から引退するまで、連続26年以上にわたって、女性プレーヤーとして世界第一位の座を守ってきた。

ポルガールは、1979年にハンガリーで生まれた。幼少時に父親のラスローから姉妹とともにチェスの英才教育を受けた。早くも1984年にチェスの国際競技に参加し、1991年にチェスハンガリー選手権「男性」の部で優勝し、インターナショナル・グランドマスターのタイトルを獲得した。これによって、ロバート・フィッシャーが30年以上も保持していた記録を破り、15歳で史上最年少のグランドマスターとなった。ポルガールは、1989年1月に、レート2555で世界55位に急上昇し、初めて世界トップ100入りを果たした。それ以来、世界100位以内を保持し続けている。現在もまだ史上最年少での世界トップ100入り記録は破られていない。2005年に世界チェス連盟FIDE世界選手権(2005)に参加し、女性として初めてオープン世界選手権サイクルのファイナルに進出した。現在二人の子供の母親として、夫といっしょにブダペストに在住。2012年に『私はどのようにしてフィッシャーの記録を破ったか』"How I Beat Fischer's Record"という自伝を出版し、国際的なアイドルとなった。6ヶ国語に堪能で、真に国際的な場において専門領域で男性のライバル達に打ち勝った現代女性の真の代表者といえる。

(ユディット ヒダシ・ブダペスト商科大学教授)